

・・・ 編集後記 ・・・

平成27年4月から臨床検査技師の可能な業務として、味覚や嗅覚の検査、鼻咽腔や肛門、表在からの検体採取などが加わった。これに伴い臨床検査技師の卒前教育のカリキュラムが変更となった。指定校では「人体の構造と機能」7単位が8単位へと増加し、かつ「医療安全管理学」1単位が追加された。これに対して、承認校では「医療安全管理学」の講義15時間と実習15時間が追加された。「人体の構造と機能」の追加はなかった。なお長年、現実離れしていた「放射線同位元素検査技術学」実習30時間が削除され、講義30時間のみとなった。これでも現実離れしているが、良しとせざるを得ないであろう。それにしても「指定校」と「承認校」のギャップは大きい。本協議会への加盟校が今年83校になると伺った。「承認校」が大半を占めることになり、真価が問われる。そろそろ自助努力が必要であろう。

私事だが、30年近く一般病院で、臨床検査、輸血および臨床工学を担当する部門で臨床検査専門医として、また感染対策担当者として働いた。そして後半の約16年はそれらの管理を担った。医療とは、診療とは、臨床検査とは、病院とは、人とは、等々幾度となく考えさせられた。専門学校を廃校にして大学を設立すると言うことで定年を前に病院を辞し今日に至っているが、未だ検査の現場から大学をみている自分がある。

小さな大学だが、大学の完成を目指して色々な決めごとが必要となった。正直これには辟易したが、

一方で教育の難しさというか、奥深さを何となく感じるようになった。特に今年卒業する1期生には濃厚に接することとなり、幼少期からの積み重ねが今にあることを改めて感じた。よく考えれば自分や自分の子供もそうである。「三つ子の魂、百まで」とはよくいったものである。

今年度から編集委員会のメンバー構成が代わった。委員数を増やし半数ずつが交代する仕組みとなった。前委員長の奥宮敏可先生の提言によるものである。雑誌は年に3冊発行される。1冊は学術大会抄録集であり、2冊は執筆原稿からなる雑誌である。後者2冊のうち1冊は当該年の学術大会の講演、シンポジウム、学生発表等が掲載され、もう1冊がいわゆる投稿原稿からなる雑誌である。しかし、残念ながら自主投稿は極めて少なく投稿をお願いしているのが実情である。教育領域での原著は難しい。総説、報告、資料、主張、レター等を通してプラクティカルなテーマで教育の推進に資するものを考えていかねば継続は難しい(これまでの編者のご苦勞は本号掲載の奥宮前委員長の寄稿をお読み下さい)。卒後教育とのジョイントも検討する必要がある。本誌が臨床検査技師の「卒前卒後教育に関する交流の場」となるよう、また「教える者が学ぶ場」となるよう努めたい。原稿を依頼された先生は社会貢献と思って、是非積極的にお引き受け頂きたい。

(平成28年1月5日 編集委員長 松尾収二)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部
編集委員会(平成27・28年度、五十音順)

委員長：松尾収二(天理医療大学)、副委員長：嶋田かをる(熊本保健科学大学)・渡邊幹夫(大阪大学)、
委員：石橋佳朋(東武医学技術専門学校)、奥宮敏可(熊本大学)、坂口みどり(九州医学技術専門学校)、
高岡榮二(高知学園短期大学)、村上博和(群馬大学)、山内一由(筑波大学)、横尾智子(新渡戸文化短期大学)、横田浩充(東邦大学)

臨床検査学教育 第8巻 第1号

平成28年3月1日 発行

発行人：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
理事長 戸塚 実
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
生体検査学専攻内
Tel. 080-8914-3214
e-mail : jimukyoku@nitirinkyo.jp
http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail : edit@jamte.org
制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770
広告取扱社：(株)日本廣業社
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-11
Tel. 03-3238-7501